

## 5 新規Walking Bleach剤"Opalescence Endo"の臨床応用

○笠原由紀<sup>1</sup>, 野崎怜美<sup>1</sup>, 金子 潤<sup>1, 2</sup>

明倫短期大学 1附属歯科診療所, 2歯科衛生士学科

keywords : Walking Bleach, Opalescence Endo, 歯科漂白, 無髄歯

### はじめに

変色無髄歯に対する漂白法としては, 35%過酸化水素水と過ホウ酸ナトリウム粉末をペースト状に混和して髄腔内に封入する旧来のWalking Bleach法が現在でも主流となっている。近年, 新規Walking Bleach剤としてOpalescence Endo (Ultradent Products) が発売された (図1)。

今回, 本漂白剤を1例に臨床応用し, その術式と漂白効果について検証したので報告する。

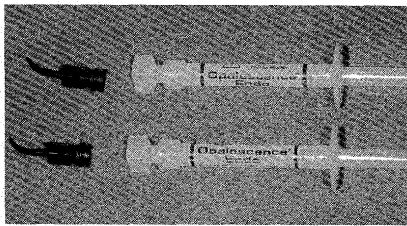


図1 Opalescence Endo

### 症 例

患者は2006年3月に2)の審美障害を主訴に来院した28才女性である。以前に歯髄炎のため近医にて抜髄処置を受け, その後徐々に歯冠が変色した。同部の診査とX線撮影を行ない, 慢性根尖性歯周炎および変色歯 (術前シェードC4) と診断した。

感染根管治療および根管充填の後, 根管口部をFujiIX GP (GC) にて封鎖し, 患者の同意を得た上でOpalescence Endoを髄腔内に貼付, CAVITON (GC) で仮封した (図2)。本処置は1週間おきに計4回行ない, 毎回来院時には写真撮影とシェードチェック, 術前および漂白終了時にはShadeEye NCC (松風) にて測色を行なった。漂白終了後1週間Calcipex II

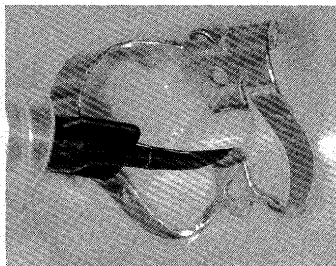


図2 漂白剤貼付

(日本歯科薬品) を髄腔内に貼付してアルカリ化処置を行い, UniFil LoFlo Plus (GC) シェードBWとClearfil ST (クラレメディカル) シェードA1を用いて口蓋側および近心Ⅲ級を最終充填した。

### 結果および考察

シェードガイドによる視感比色では術後シェードB2となり, 明度上昇ステップ数 $\Delta$ sguは13となった。肉眼的にも歯冠部の変色状態は術後に著しく改善され, 隣接する1)と同程度の色調にまで回復した。術前および

表1 測色結果

	術前	術後
L*	62.9	69.2
a*	4.4	1.0
b*	16.4	15.9
$\Delta$ E	—	7.2
W	59.2	65.3
$\Delta$ W	—	6.1

術後の測色結果から算出した色差 $\Delta$ Eは7.2, 白色度Wは59.2から65.3へと上昇し,  $\Delta$ Wは6.1となった (表1)。以上より, 本症例では高い漂白効果を認め, 処置後患者の満足を十分に得ることができた。また, 漂白処置

中患者には自発痛や打診痛などの臨床症状は出現しなかった。

本漂白剤は35%過酸化水素水に増粘剤を加えてシリンジから塗布する仕様であり, 術者の操作性, 操作時の安全性, 薬剤の象牙質面への保持効果などが格段に改善されており, 旧来のWalking Bleach法に比べてチェアタイムの短縮も可能と思われる。今後, 本漂白剤の臨床応用をさらに進め, その有用性を確認していく予定である。

### 文 献

- 1) 金子 潤 : Walking Bleach法による無髄歯の漂白 - 術式とメカニズム - . Dental Diamond増刊号 ; 漂白 - White Whiter Whitest : 144 - 151, 2000